

平成 25 年度（2013 年度）
事業報告書

自 平成 25 年 4 月 1 日
至 平成 26 年 3 月 31 日

公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟

目 次

概 況	1
1. はじめに	1
2. 連盟全体	1
3. 事業別概況	2
I. 競技会事業（公益目的事業 1）	7
1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1）	7
2. 競技会運営環境の整備（公益目的事業 1.2）	8
3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3）	8
4. 競技会事業管理（公益目的事業 1.9）	8
II. 普及事業（公益目的事業 2）	9
1. 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）	9
2. 講習会等の開催（公益目的事業 2.2）	11
3. 体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3）	13
4. 広報（公益目的事業 2.4）	16
5. 普及事業管理（公益目的事業 2.9）	17
III. 国際交流事業（公益目的事業 3）	18
1. 国際競技会の主催（公益目的事業 3.1）	18
2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2）	18
3. 国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3）	19
4. 国際交流事業管理（公益目的事業 3.9）	19
IV. 収益事業等	20
1. 公認（収益事業等 1）	20
2. 商品販売（収益事業等 2）	21
V. 管理部門	22
1. 会員・会友	22
2. 理事会・会員総会	23
3. 組織運営	24
4. 企画委員会	24
5. センター協議ワーキンググループ	25

概 況

1. はじめに

公益社団法人として新たなスタートを切ってから 2 年目となる平成 25 年度は、より一層公益に資する事業運営を推進していくための基盤づくりに引き続き注力した。また本年度は創立 60 周年に当たるため記念事業を行うとともに、4 月には、NEC ブリッジフェスティバルと Yeh Bros 杯の同一会場での連続開催という初めての試みを実施し、国際交流を通じたブリッジの発展に協力するとともに、競技会運営ノウハウの集積・向上に努めた。

予算執行状況を見ると、本年度は、NEC ブリッジフェスティバルの 2 回開催及び Yeh Bros 杯開催という特殊要因による費用増のため、収支予算書作成時点で一般正味財産増減額は約 1,760 万円減といういわゆる赤字予算を組んでいたが、決算では約 2,220 万円減と赤字額は当初予想を約 460 万円上回った。

当期経常増減額のうち経常収益については約 2 億 6,600 万円を見込んでいたが、実績では約 2 億 4,200 万円となり、予算に対して約 2,400 万円の不足となった。経常費用については当初約 2 億 8,400 万円を見込んでいたが、2 億 6,400 万円となり約 2,000 万円の改善が見られた。経常収益の不足の主要因は、競技会事業（公 1）で約 760 万円、競技会公認事業（収 1）で約 1,240 万円、予算に足りなかったことによるが、これは主に連盟主催競技会や公認競技会への参加者数の減少などによるものと考えられる。経常費用が予算を下回った主な要因は、普及事業関連費用が全般的に予想を下回ったことによる。

これまで概ね横ばいまたは増加傾向にあった競技会の参加者数が、本年度は減少に転じたことは懸念材料である。もしこの傾向が一時的なものでない場合には、本連盟のみならず、ブリッジの普及発展を担うブリッジセンターの今後の運営にも大きな影響を及ぼす可能性がある。平成 26 年度以降は、競技会参加者動向の分析を行うとともに、参加者を安定的に増やしていくための方策についてブリッジセンターと協力しながら検討していきたい。

以下では、平成 25 年度事業計画の基本方針に沿って事業活動の概況について述べる。

2. 連盟全体

平成 25 年度は、連盟全体として次の 3 点を事業活動の基本方針として掲げた。

「引き続き業務執行体制の強化と公益に資する事業運営に努める。具体的には、平成 24 年度に事業部ごとに策定した中期計画あるいは方針に沿って計画的に事業を実施する。また、公益に資するという観点から、公認料率や参加料等の見直しについても検討を進める。」

普及事業部では、第 2 次 5 ヶ年計画の 4 年にわたる成果及びその間に浮き彫りとなった新たな課題を反映し、平成 25 年度を初年度とする新たな中期計画を策定し、実施した。今後 3 か年のスローガンを「気楽に遊ぼう！コントラクトブリッジ」とし、数値目標として「3 年後(平成 27 年度末)の会員・会友数 8,000 人」を掲げた。

公認料率の見直しについては、センター協議ワーキンググループとブリッジセンターとの協議を踏まえ、理事会の承認を経て、平成 26 年度から料率を軽減することに決定した。競技会参加料については平成 26 年 4 月時点での値上げを見送り、次回の消費税変更時期に合わせて検討することに決定した。

「設立以来の課題であった福岡ブリッジプラザの独立に伴い、同プラザの事業立ち上げ

活動を支援するとともに、九州地区における普及活動は地方活性化支援その他一般事業の中で対応する。」

平成 25 年 3 月末をもって福岡ブリッジプラザは連盟の手を離れ、地元有志を中心とするブリッジ愛好者グループによる運営体制へと移行した。その後、同プラザは特定非営利活動法人の申請を行い、これが承認され、平成 26 年 4 月からは「特定非営利活動法人福岡ブリッジプラザ」として活動していくことになった。

同プラザの運営体制が軌道に乗るまでの立ち上げ時期の支援活動として、本年度は以下を実施した。

- 会場スペースの貸し主の意向もあり、これまで同様 JCBL が賃貸借契約を継続することとし、敷金も連盟負担を継続した。
- 平成 25 年度の同プラザ主催の競技会公認料を免除した。
- 規定に基づき、初心者講習会の費用に対して助成を行った。また、福岡大学ブリッジ講座については連盟の事業として講師料、アシスタント料などを支給した。

「本年度は当連盟設立 60 周年の節目に当たるため、記念事業として記念大会を開催する。一方未来への財産として、これまでの活動を整理し記録を保管していくことにも着手する。」

平成 25 年 11 月に連盟設立 60 周年記念同時大会を実施した。

連盟設立 60 周年記念事業の一環として、平成 26 年 1 月 1 日以降の新入会者の平成 27 年 3 月末までの会費を免除することに決定した。

3. 事業別概況

(1) 競技会事業（公益目的事業 1）

「NEC ブリッジフェスティバルを含め、主催競技会の運営においては、世界各国から高い評価を受けている大会運営ノウハウを生かして質の高い競技会の提供に努めるとともに、担当ディレクターや参加者からの意見やニーズを収集して問題点や課題の把握に努め、迅速に対応していく。」

NEC ブリッジフェスティバルは例年 2 月に開催しているが、Yeh Bros 杯の 4 月開催に合わせて前年度分の第 18 回大会を平成 25 年 4 月に開催するとともに、今年度分の第 19 回大会を平成 26 年 2 月に開催したため、今年度は単年度に 2 回開催となった。

第 18 回大会では、Yeh Bros 杯に招待された一流メンバーによるチームが多数参加したため、非常にレベルの高い大会になった。

第 19 回大会では、従来からウェブサイトを通じて公開していた結果速報に加えて、リアルタイムスコア表示システムを開発・導入した。

「中長期的な課題として、引き続きよりよい競技機会を広く提供するために競技会の内容の見直しと競技会参加者に対するサービス向上を図る。」

JTOS とブリッジメイトを使用することにより、迅速で正確な競技会結果の集計を行っている。一部の競技会で全参加者が共通ボードをプレイできていない状況は、多少改善したものの残念ながら現在も継続している。今後は新たにボードを揃えるなどして、最低限連盟競技会においては全テーブルで共通ボードをプレイできるよう改善に努め

る。

「競技会運営管理システムの整備・改善に努める。競技会運営ソフト（JTOS）の保守を継続し、新バージョンをリリースするとともに、ブリッジメイトシステムの貸与及び導入支援を継続する。」

平成 25 年度は JTOS 製品版のリリースは行わなかったが、主にブリッジメイト使用に関する機能を改良したバージョンを、ブリッジメイトを導入済みのブリッジセンターに対して随時提供した。

次回 JTOS 製品版は平成 26 年 4 月にリリースする。

「ディレクター講習会を継続し、競技会運営のレベルアップを図る。本年度はナショナルディレクター養成プログラムを実施する。」

クラブディレクター講習会を平成 26 年 3 月に開催した。

ナショナルディレクター養成プログラムを実施し、連盟主催競技会でのディレクター実習、平成 25 年 9 月に 1 次試験、平成 26 年 3 月に 2 次試験を行った。今回ナショナルディレクター認定者は出なかった。

(2) 普及事業（公益目的事業 2）

本年度は平成 25 年度「普及事業中期計画」で定めた以下の方針に沿って、計画的に事業活動を実施した。

「20～30 代への普及を最優先とし、ネット上にもブリッジの場を拡げる。20～30 代の興味を喚起して実際にプレイしてもらい、向上心が芽生えてきたら、入門書や講習会などの受け皿で競技会のおもしろさを徐々に伝えてゆき、結果として会友拡大を図る。」

20～30 代への普及を狙って、JCBL ウェブサイトから無料でダウンロードできる「マイクロハーフブリッジ」を平成 25 年 4 月にリリースし、ルールだけ知っていればひとりでプレイできる環境を整えた。ただし、スマートフォン上でプレイできるようにすることは技術的に難しく、PC 環境だけのサービスにとどまった。また 4 人のプレイヤーがネット上でプレイできる環境は、既存サイトに対する改造要求仕様の検討に想定以上の期間を要し、サービス開始には至らなかった。

入門書は「ミニブリッジで遊びながら身につくコントラクトブリッジプレイテクニック」を平成 25 年 5 月に、「ゼロからのコントラクトブリッジ」を平成 25 年 10 月に刊行し、JCBL 直販だけでなく、一般の大手書店やネットショップでも販売を開始した。

講習会は助成を厚くすることで開催数の増加を図り、平成 25 年 9 月及び平成 26 年 3 月には全国一斉に告知広告を出すなどのプロモーションを行うことで受講者数を増加させた。

「現会友の中心的な層をなすシニア世代へは、ブリッジの固定ファンとして定着するよう、豊かなブリッジができる楽しい場を提供する。従来から継続している事業の発展形として元ジュニア、元学生プレイヤーの層に対し、それぞれに応じた最適な場を提供していくことを合わせて検討する。」

ブリッジを覚えてたての人が遊びながら上達していくことを目指した初級プレイヤー

ズサロン「ABC クラブ」、20 年前、30 年前にブリッジを覚えたシニアプレイヤーや元ジュニア、元学生プレイヤーを主なターゲットに、ひとりで来てでも気軽に遊べる中級プレイヤーズサロン「XYZ クラブ」を平成 25 年 10 月から四谷ブリッジセンターで、平成 26 年 1 月から渋谷ブリッジセンターで開設した。

「普及のターゲットごとに志向（パズル、ゲーム、勝負事、社交、ブランド、学び、自己実現）を明確にして、まったく縁がない状態から『どこかで見ると ⇒ 何となく知る ⇒ 興味を持つ ⇒ 興味がある ⇒ 参加する』という流れを作る。」

パズルやゲーム志向の 20～30 代を主なターゲットに、パズル誌を使ったプロモーション広告を出し、ゲームマーケットで体験イベントを開催した。社交や学び志向のシニア世代には、告知広告を一般紙などに出し、体験教室や入門講習会に勧誘した。

またさまざまな世代、さまざまな嗜好の方が手に取ると思われる機内誌には PR 広告やブリッジクイズを掲載してブリッジのおもしろさを伝え、知名度アップを図った。

「現在も将来も普及の拠点となるべきブリッジセンターにおける普及活動への支援・助成を拡充する。とりわけ、首都圏における普及活動は、体験教室を数多く開催することにより質の高い入門講習会を開催することにシフトし、受講料等を助成することによって『参加しやすくする ⇒ 参加する ⇒ おもしろい・楽しい ⇒ もっとやりたい ⇒ 上達したい』という流れを作る。」

受講料を助成することはせず、現状の受講料でも主催者側の負担が軽くなるよう助成規定を見直し、下半期から暫定的に適用した。具体的には、質の高い入門講習会を開催するために十分な人数のアシスタントを確保できるようにし、必要に応じてテーブルチャージ相当金額を補てんすることにした。

「大阪、名古屋における普及活動は、ブリッジセンター事業を含め、別途検討する。」

大阪ブリッジセンター、名古屋ブリッジセンターを中心とした近畿圏、東海圏における普及活動については、体験教室や入門講習会の全国一斉告知広告の中で対応し、個別の具体的課題は改めて洗い出すことにした。

「九州における普及活動は、特段の事業を設けず、地方活性化支援その他一般事業の中で対応する。」

九州における普及活動は、全国一斉告知広告のプロモーションの中で対応した。

「その他の地方における普及は、体験教室を数多く開催し、『友人知人がプレイヤー ⇒ 誘われる ⇒ 興味を持つ ⇒ 参加する』という流れを作る。」

全国のブリッジクラブによる普及活動を奨励し、イベント企画・体験教室スタッフ派遣・賞品提供など必要な支援を行った。

(3) 国際交流事業（公益目的事業 3）

「本年度も、国際的な競技会を開催し、ブリッジの普及発展とブリッジを通じた国際交流に努めるとともに、国際競技会運営ノウハウの集積と技術向上をめざす。具体的には、4 月にチャイニーズ・タイペイの実業家の葉氏が主催する Yeh Bros 杯の日本開催に協力して運営に当たる。NEC ブリッジフェスティバルと連続する形で開催することにより、シナジー効果や費用対効果の向上をめざす。」

これまでチャイニーズ・タイペイ、中国、オーストラリアで開催されてきた Yeh Bros 杯を平成 25 年 4 月に横浜で開催した。主催者の葉氏の招待により一流プレイヤーが多数来日し、非常にレベルの高い大会になった。第 18 回 NEC ブリッジフェスティバルに続いて開催することで、NEC ブリッジフェスティバルのレベルアップにもつながるとともに、2 つの大会で経費を分割することで経費負担を抑えることができた。

「中期的な目標としてアジア競技大会でのブリッジ種目採用を掲げ、APBF 加盟国・地域の NBO、特に地域内の有力国・地域である中国、チャイニーズ・タイペイ、韓国との連携を強化し、マインドスポーツとしてのブリッジの普及・発展に努める。」

本年度も例年どおり上記方針に従い事業活動を行った。

(4) 収益事業等

① 公認事業（収益事業 1）

「公認事業関連業務の見直しを行い、システム化、効率化を図る。特に、公認ブリッジクラブ及びブリッジセンター主催競技会の公認料制度について、クラブ・センターの代表と協議のうえ、中長期的に双方の事業基盤が強化されるような制度改定をめざす。」

競技会の結果報告を JTOS で送信してもらうことにより、競技会のすべてのデータを入手でき、マスターポイント発行、公認料・割引の集計を一元的に行っている。参加者のニーズにあった競技会を提供していくため、参加者データを収集している。

センター協議ワーキンググループにおける検討結果に基づき、リジョナル 5 競技会の主催を連盟からブリッジセンターに移管した。

平成 26 年度からセクショナル以上の競技会の公認料の引き下げを実施することになった。

② 商品販売事業（収益事業 2）

「在庫管理や販売方法など関連業務の効率化を図る。」

在庫管理やウェブからの商品発注に対する回答を自動化することを検討している。

(5) 管理部門

「事務局業務の改善に引き続き取り組み、業務の効率化を推進する。」

業務担当の見直しと変更、並びに、業務効率化のための具体策については来年度に持ち越した。

「内部統制力の向上のため、連盟内システムの見直しと改善を図る。」

具体策については来年度に持ち越した。

「センター協議ワーキンググループを通じてブリッジの普及と発展に資する公認制度の在り方や連盟の支援方法を引き続き検討していく。」

今年度これまでの競技会の質を落とさないことを条件に、連盟主催のリジョナル競技会の一部をセンター主催に移管した。

平成 26 年度から公認料率の引き下げを実施することに決定した。平成 26 年度についてはすべてのセンターに対し一律で適用し、平成 27 年度以降は、センターに義務づけられている普及活動の実施状況に応じて割引料率を適用するか否かを判断する制度を導入することになった。この決定に基づき、「公認クラブ規則」を「公認クラブとブリッジセンターに関する規則」に改正、平成 26 年 4 月 1 日より施行する。

平成 26 年度以降も、センターとの協議を継続して行く。

「会友制度の簡素化を図り、誰の目にもわかりやすい制度へ改定する。」

これまで一般会友、シニア会友、団体会友、海外会友、家族会友、地方会友、ユース会友、ジュニア会友と分かれていた会友資格を、平成 26 年度から A 会友（一般、団体、海外、家族）、B 会友（シニア、ユース）、地方会友、ジュニア会友の 4 つにまとめることになった。

「競技会参加料割引制度の廃止案の検討を継続し、進展する高齢化社会に対応可能な事業基盤の構築をめざす。」

平成 26 年度からセクショナル競技会のシニア割引制度を廃止することになった。約 2500 万円の負担減となるが、この分は会友制度の改定に伴う会費収入減、公認競技会の公認料率の引き下げ、普及活動の拡大等に充てる。

I. 競技会事業（公益目的事業 1）

1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1）

① 主催競技会

- 本年度は以下の競技会を主催した。

競技会名	日程	開催日数	場所	参加卓数	前年度
1) ナショナル競技会（全国大会）					
全日本地域対抗選手権（関東予選）	5月11、12、18、19日	4日	四谷 BC	86卓	104卓
藤山杯（予選・決勝）	7月6、7日	2日	四谷 BC / 渋谷 BC	106卓	109卓
外務大臣杯（予選・決勝）	8月24、25日	2日	四谷 BC	50卓	48卓
高松宮記念杯	9月14～16、21、22日	5日	四谷 BC / 五反田 BS	100卓	101卓
全日本女子ペア選手権（予選・決勝）	9月28、29日	2日	玉川高島屋 S・C / 渋谷 BC	103.5卓	105.5卓
高松宮妃記念杯（予選・決勝）	11月2、3日	2日	四谷 BC	80.5卓	83.5卓
NISSAN ブルーリボン杯	12月23日	1日	四谷 BC / 名古屋 BC / 大阪 BC	98.5卓	98卓
エンゼル・レッドリボン杯	12月23日	1日	高田馬場 BC / 大阪 BC	35.5卓	38.5卓
朝日新聞社杯	1月11～13日	3日	四谷 / 五反田 高田馬場 / 渋谷	165卓	153卓
2) 日本リーグ					
1部	} 前期：6・7月 後期：12・1月	4日	四谷 BC	16卓	16卓
2部		4日		24卓	24卓
3) リジヨナル競技会					
柳谷杯	4月6、7日	2日	四谷 BC / 五反田 BS 高田馬場 BC	114卓	126卓
サントリー杯	4月29日	1日	四谷 BC / 横浜 BC 名古屋 BC / 大阪 BC	93.5卓	95.5卓
井上杯（予選・決勝）	5月25、26日	2日	四谷 BC	45卓	46卓
井上歌子杯	5月26日	1日	四谷 BC	25.5卓	18卓
渡辺杯	3月22、23日	2日	四谷 BC	40卓	49卓
4) 社会人リーグ					
社会人 IMP リーグ	11月～3月		各会場	14卓	14卓

- 本年度も前年度優勝者を招待した。地方予選通過・地方クラブ推薦による参加者に対しては交通費・宿泊費の助成を実施するとともに、前日宿泊の宿泊費を助成した。

内訳：交通費補助・前泊補助の対象はチーム戦 5 競技会 24 チームと、ペア戦 3 競技会 32 ペア、補助総額は 349 万円。

- 日程及び会場の都合で、平成 25 年 4 月開催予定の玉川高島屋 S・C 杯を平成 25 年 3 月に開催したため、同競技会は今年度は開催されなかった。
- 参加者数が全般的に例年より減少している。

② NEC ブリッジフェスティバル

- 平成 25 年度の NEC ブリッジフェスティバルを Yeh Bros 杯と日程を連続させて平成 25 年度 4 月に開催したため、平成 26 年 2 月とあわせて今年度は 2 回開催した。

2. 競技会運営環境の整備（公益目的事業 1.2）

本年度は以下の事業を実施した。

① 競技会運営管理システム

- 競技会集計ソフト（JTOS）の保守・管理を行い、主にスコア入力システム（ブリッジメイト）使用時の機能を向上させ、ブリッジメイトを使用するセンター/クラブに対しては随時バージョンアップしたβ版を提供した。
- 今年度は JTOS 正式版のリリースはなかったが、ブリッジメイト端末からの参加者登録を可能にした ver 3.1 からの改良バージョンをリリースし、ブリッジメイト導入クラブに配付した。
- ブリッジメイトの使用方法を改善し、一般クラブでの使用を支援した。今年度は、宗像ブリッジクラブが新規に導入した。

② 競技会運営環境の整備と維持

- 主要競技会の予想参加者数に応じて、複数の会場（主に首都圏ブリッジセンター）に会場提供を依頼し、参加者数に対して余裕のある会場スペースの準備・確保に努めた。

③ 競技委員会

- 任期 2 年のため、平成 24 年度に引き続き、寺本直志理事を委員長として以下の 11 名が委員として活動した。

委員： 齋藤千鶴乃、山後秀幸、佐々部君敏、田中陵華、西田奈津子、西田博、
古田一雄、正村祐一、山菅昭夫、林伸之、仲村篤志

- 定例委員会（隔月）を、6 回開催した。

④ ルール委員会

- 宮内宏氏を委員長に、5 名の委員による定例委員会を 3 回開催した。

3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3）

本年度は以下の事業を実施した。

① ディレクター講習会

平成 26 年 3 月 16 日（日）に四谷ブリッジセンターでクラブディレクター養成講習会を開催し、13 名が受講した。同時にクラブディレクターを対象とする講習会を開催し、3 名が受講した。

② ナショナルディレクター養成プログラム

本年度は 1 次試験を 5 名、2 次試験を 3 名が受験し、随時実地研修を行った。今回は、ナショナルディレクター認定者は出なかった。

③ ディレクター承認

競技委員会においてクラブディレクター 19 名、セクショナルディレクター 1 名を承認した。

4. 競技会事業管理（公益目的事業 1.9）

- 競技会事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出した。

II. 普及事業（公益目的事業 2）

本事業は、ブリッジのことをよく知らない人々の興味・関心を高め、また、あらゆる年齢層のブリッジに対する理解及び技量の向上を促すことにより、マインドスポーツとして文化・スポーツの両方の側面を有するブリッジの普及を図り、児童・青少年の健全な育成、国民の心身の健全な発達及び豊かな人間性の涵養に寄与することを目的とする。具体的には、(1) 体験イベントの開催、(2) 講習会等の開催、(3) 他の団体等による体験イベント・講習会等の実施支援、(4) ブリッジ普及のための広報及びツールの作成・配布の 4 事業を行う。

平成 25 年度は、「普及事業中期計画」に基づいて、従来から継続して実施している事業の規模を見直し、新たに以下の新規事業に着手した。ただしブリッジセンター普及活動支援事業は試行段階とし、その経過を見ながら平成 26 年度に向けて事業が軌道に乗るよう注力した。

新規事業

- ・ プレイヤーズサロンの開設（公益事業 2.2）
- ・ ブリッジセンター普及活動支援（センターと共同での普及活動）（公益事業 2.3）
- ・ ネットブリッジの試作（公益事業 2.4）
- ・ 普及に関わる JCBL 公認資格制度の確立（公益事業 2.9）

なお、福岡ブリッジプラザの独立に伴い、これまで同プラザ及び九州支部が主催していた九州地区における普及事業は同プラザに移管した。

1. 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）

ブリッジをよく知らない人々を対象に、気軽に参加でき、ブリッジに対する興味・関心を高めもらうための各種体験イベント関連事業を「体験イベントの開催」としてまとめ、以下事業を実施した。

① 文化・教育関連イベント出展

事業名	主催団体	実施場所	実施時期	日数	受益対象者の範囲	参加人数 (延べ)
国民文化祭	文化庁	山梨県立図書館	11月2日～4日	3日	一般	48名
霞が関子ども見学デー	文部科学省	文部科学省	8月7日8日	2日	小中学生及びその保護者など	400名
第7回関西ジュニア・ペア碁大会	日本ペア碁協会	京セラドーム	8月4日	1日	小中学生及びその保護者など	42名
夏休みジュニア&プロふれあい囲碁まつり	日本棋院中部総本部	日本棋院中部総本部	中止	1日	小学生～高校生及びその保護者など	
あだちサークルフェア 2013	足立区	足立区生涯学習センター	10月12日～14日	3日	足立区民	15名
ゲームマーケット（東京）	ゲームマーケット事務局	ビッグサイト	4月28日	1日	一般	88名
ゲームマーケット（東京）	ゲームマーケット事務局	ビッグサイト	11月4日	1日	一般	57名
ゲームマーケット（大阪）	ゲームマーケット事務局	大阪マーチャンダイズ・マート	3月9日	1日	一般	70名

② 一般向け体験イベント

- ・ NEC ブリッジフェスティバル体験イベント

NEC ブリッジフェスティバルという注目度の高い機会を最大限に活用して、一般の人々にブリッジに対する興味・関心を高めてもらうための各種普及イベントを開催した。

会 期： 平成 25 年 4 月 19 日（金）～20 日（土）

会 場： パシフィコ横浜会議センター

計画概要： 1. マインドスポーツ体験教室 4 月 20 日終日
2. 初心者大会ビギナーズ杯 4 月 19 日午後・20 日午後
3. ブリッジ実戦教室 4 月 20 日午前

受益対象者の範囲・参加人数： 一般市民 360 名（延べ）

会 期： 平成 26 年 2 月 14 日（金）～15 日（土）

会 場： パシフィコ横浜会議センター

計画概要： 1. マインドスポーツ体験教室 2 月 14 日・15 日
2. 初心者大会ビギナーズ杯 2 月 14 日午後・15 日午後
3. ブリッジ実戦教室 2 月 14 日午前・15 日午前

受益対象者の範囲・参加人数： 一般市民 119 名（延べ）

• ブリッジを愉しむ会

日頃ブリッジをする機会の少ないプレイヤーを中心に、多くの人がブリッジを通じて気軽に交流できる場を提供した。3 月に予定していた開催は中止したため年 3 回開催になった。

開催日： 5 月 8 日、9 月 11 日、12 月 11 日の年 3 回開催

会 場： 四谷ブリッジセンター

受益対象者の範囲・参加人数： 一般プレイヤー・20 名、20 名、16 名

• 横浜ビギナーズ杯

開催日： 平成25年6月24日（月）（午前・午後）

会 場： 横浜ブリッジセンター

参加者数： △2MP 午前20名 午後20名 合計40名
△10MP 午前19名 午後21名 合計40名

③ ユース向け体験イベント

• ユースキャンプ

全国の学生を対象とする JCBL 主催のブリッジキャンプを開催し、学生同士の交流と技術向上を支援した。大学ブリッジ講座の受講生・修了生が次のステップを目指す場となることも期待している。JCBL 及び各大学のブリッジクラブのウェブサイトなどを通じて告知・PR 活動を行った。

開催日： 平成25年10月12日（土）～10月14日（月）

会 場： 洛西ふれあいの里保養研修センターふれあい会館

受益対象者の範囲・参加人数： 全国の大学生18名

④ ジュニア向け体験イベント（ジュニアくらぶイベント）

• ジュニアくらぶ体験イベント

ジュニア層及びその保護者に対するブリッジの認知度・イメージの向上とジュニアプレイヤーの数的・地域的基盤の拡大を図り、将来のブリッジ界を担うジュニアプレイヤーを育成するため、ジュニア層及びその保護者がミニブリッジを体験、練習できる機会を継続的に提供した。

年間開催実績

事業名	実施場所別回数		実施時期	参加人数 (合計)
	四谷 BC	横浜 BC		
体験／入門／練習会				
体験教室	4	3	通年	30名
橋之介道場	4	9	通年	58名
大会				
お楽しみ大会	0	2	12月8月	12名
第5回横浜ミニベブリッジフェスティバル杯	-	(1)	5月	4名
第4回ジュニア・ミニブリッジチーム選手権	1	-	7月	不成立
第3回マクブリッジ杯	(1)	-	7月	5名

- ジュニアくらぶ運営

本年度のジュニアくらぶへの新規入会者数は7名（平成24年度20名）、年度末時点での会員数は251名（同249名）、各種イベントへの延べ参加者数は109名（同139名 ※ジュニアのみ）であった。

ジュニア向け広報活動として季刊誌『ジュニアくらぶ通信』の編集・発行（6月、9月、12月、3月）を行った。このほか、会報ジュニアコーナー・ウェブサイトのジュニア向けページの記事の編集・作成・掲出、チラシ・ポスター制作・配付、登録者向けのイベント情報のメール配信などの広報活動を行った。

2. 講習会等の開催（公益目的事業 2.2）

ブリッジに親しみ、理解を深め、技量を向上させるための講習会等を開催する事業を「講習会等の開催」としてまとめ、以下の事業を実施した。

① ミニブリッジ指導法講習会

- 体験教室や入門講習会の講師を初めて務めるプレイヤーのための講習会を依頼ベースで開催する計画だったが、本年度中の依頼はなかった。

② ユース向け講習会

- 意欲あるユースプレイヤーの育成を目的とする「ユース育成プロジェクト」の一環として、強化プログラムによる技術向上支援を行った（「ユース育成プロジェクト」の国際大会派遣事業は公益目的事業 3.2）。

A) 育成プロジェクト（公益目的事業 2.2）

平成25年度の代表選手及び平成26年度代表候補登録者を対象に、練習会、講習会、国内競技会参加（反省会形式の講習会を含む）、代表選考試合等で構成される育成プロジェクトを実施した。参加者には、プロジェクト指定の6競技会（柳谷杯、横浜 INV、高松宮記念杯、朝日新聞社杯、NEC杯、木村六郎杯）と特別講習会への参加費を助成した。遠方からの参加者には、交通費・宿泊費の助成も行うとともに、各講習会には講師を派遣した。

ユース育成プロジェクトの今年度の登録者数は44名（前年比4名減）だった。

B) 国際大会への派遣（公益目的事業 3.2）

本年度は以下の国際大会への代表選手派遣または参加支援を実施した。

- WBF ワールドユースオープンチャンピオンシップ

会 期： 平成25年8月3日～8月11日

開催地： アメリカ（アトランタ）

内 容： 26歳未満(U26)のジュニアチーム6名を派遣し、航空運賃、宿泊費、参加料、海外保険料、ユニフォーム代を助成した。

- APBF ユース選手権

会 期： 平成 25 年 8 月 19 日～8 月 25 日

開催地： 中国（武漢）

内 容： 26 歳未満（U26）のジュニアチーム 6 名、21 歳未満（U21）のヤングスターチーム 6 名、計 12 名の選手、NPC1 名の派遣に伴う航空運賃、宿泊費、参加料、海外保険料、ユニフォーム代などを助成した。

- ホワイトハウスカップ（参加支援）

会 期： 平成 26 年 3 月 30 日～4 月 4 日

開催地： オランダ（アムステルダム）

内 容： 26 歳未満（U26）のジュニアチーム 6 名に上限を 10 万円として参加経費を助成。

③ ジュニア向け講習会

- 受講対象者が少ないため、開催を見合わせた。

④ プレイヤーズサロンの開設（新規事業）

- 初心者向けサロン（サロン形式）の開設

ブリッジを覚えてたての人が遊びながら上達していくことを目指した「ABC クラブ」は、平成 25 年 10 月に四谷ブリッジセンターで、平成 26 年 1 月に渋谷ブリッジセンターで開設し、以降、それぞれ毎月第 1 水曜日、毎月第 2 水曜日に開催している。

- 中級者向けサロン（競技会形式）の開設

20 年前、30 年前にブリッジを覚えたシニアプレイヤーや元ジュニア、元学生プレイヤーを主なターゲットに、ひとりで来ても気軽に遊べる中級プレイヤーズサロン「XYZ クラブ」は、平成 25 年 10 月に四谷ブリッジセンターで、平成 26 年 1 月に渋谷ブリッジセンターで開設し、以降、それぞれ毎月第 1 金曜日、毎月第 4 水曜日に開催している。

3. 体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3）

① 体験教室・講習会等の支援

体験教室・入門講習会を開催して愛好者を増やしたいという会員・会友の自己負担を軽減する支援を継続し、開催場所・回数増を図った。また、カルチャースクール講座では通常支払われないアシスタント料を助成することにより、良質なブリッジ講座の開催を支援した。

- ブリッジセンター、クラブ及び個人が開催する体験教室の助成

11 都道府県の教育現場や文化祭、地域イベント、国際交流イベント、老人福祉センター、同窓会、公民館、ブリッジクラブ、海外クラブ、クルーズで、会員・会友が開催した体験教室の講師／アシスタント料、会場費、交通費を助成した。

地域別実施状況内訳

地域	参加者数	件数	助成額
北海道	131 名	4 件	¥102,300
宮城	36 名	2 件	¥104,240
栃木	38 名	2 件	¥46,800
茨城	20 名	1 件	¥12,000
東京	282 名	21 件	¥417,640
埼玉	143 名	3 件	¥52,680
千葉	31 名	7 件	¥73,380
神奈川	217 名	7 件	¥215,980
大阪	51 名	2 件	¥67,560
福岡	137 名	9 件	¥185,450
長崎	54 名	1 件	¥29,760
海外	154 名	1 件	¥20,500
クルーズ	25 名	1 件	¥3,000
合計	1,319 名	61 件	¥1,331,290

- クラブ及び個人が開催する入門教室の助成

10 都道府県及びジャカルタ、シンガポールなどで会員・会友が開催した入門講習会の講師料、会場費、交通費、及びクルーズのアシスタント料を助成した。

地域別実施状況内訳

地域	参加者数	件数	助成額
北海道	110 名	7 件	¥566,520
宮城	15 名	2 件	¥166,800
栃木	5 名	1 件	¥55,980
東京	72 名	6 件	¥497,360
埼玉	3 名	1 件	¥11,200
千葉	8 名	1 件	¥61,280
神奈川	144 名	8 件	¥605,080
京都	9 名	1 件	¥14,500
福岡	15 名	1 件	¥60,000
長崎	8 名	1 件	¥49,940
海外	31 名	4 件	¥203,795
クルーズ	79 名	2 件	¥360,000
合計	499 名	35 件	¥2,652,455

- カルチャー講座助成

9 都道府県で開講されているカルチャースクール講座 36 件について、アシスタント料、講師・アシスタント交通費の助成を行った。

地域別実施状況内訳（アシスタント交通費助成を含む）

地域	参加者数	件数	助成額
宮城	37 名	4 件	¥99,840
東京	284 名	19 件	¥631,740
埼玉	5 名	1 件	¥44,400
千葉	21 名	4 件	¥132,600
神奈川	8 名	2 件	¥22,860
山梨	8 名	1 件	¥48,800
大阪	37 名	2 件	¥84,960
広島	20 名	1 件	¥80,000
福岡	8 名	2 件	¥27,720
合計	428 名	36 件	¥1,172,920

- 講習会・カルチャースクール特別助成

ブリッジ普及にあたり特に重要であると普及事業部が判断する地域の講習会及びカルチャースクール講師料・交通費を助成した。

対象講習会・カルチャーセンター：仙台 BC、ヨークカルチャーセンター長野、暮らしの学校（愛知県岡崎市）

② 地方活性化のための支援

• 地方クラブ支援活動

全国のブリッジクラブによる普及活動を奨励し、イベント企画・体験教室スタッフ派遣・賞品提供など必要な支援を行った。

・長崎チェス&ブリッジクラブ主催「第 6 回長崎居留地まつりブリッジ大会新人戦」に優勝グラス寄贈（9 月）

• 初心者大会参加助成

JCBL が主催する競技会に、全国の初級者 8 ペアを 1 泊 2 日で招待した。

• 地方クラブの普及担当者研修

本年度の実績はなかった。

③ 教育現場におけるブリッジ講座支援

• 東京大学ブリッジ講座（8 年目）

講座概要： 前期・後期 各 14 回、2 単位

実施場所： 東京大学駒場キャンパス

講師： ロバート・ゲラー

支援内容： 準講師格アシスタント 2 名の派遣、四谷ブリッジセンターでの最終授業（1 日）開催、教材コピー、発送など事務業務、受講学生への JCBL 会報配付支援を行った。

結果： 受講登録者 77 名 単位取得者 57 名

• 早稲田大学ブリッジ講座（5 年目）

講座概要： 前期・後期 各 15 回

実施場所： 早稲田大学

講師： 清水映樹

支援内容： アシスタント派遣 4 名、交通費、会場費、用具その他授業経費支援を行った。

結果： 受講登録者 60 名 単位取得者 47 名

• 福岡大学ブリッジ講座（3 年目）

講座概要： 前期・後期 各 15 回

実施場所： 福岡大学

講師： 勝部雅子

支援内容： 講師及びアシスタント 3 名の派遣、交通費、その他授業経費支援を行った。

結果： 受講登録者 40 名 単位取得者 34 名

※ このほか、福岡大学では、5 月 15 日午後開催された経済学部の山崎好裕教授のオムニバス講座に対する支援も行った（出席者：約 300 名）。

• 青山学院大学ブリッジ講座（新規）

講座概要： 前期・後期 各 15 回

実施場所： 青山学院大学

講師： 島村京子

支援内容： 講師及びアシスタント 6 名の派遣、交通費、教材コピー、発送、用具その他授業経費支援を行った。

結果： 受講登録者 165 名 単位取得者 121 名

④ 学校・学生支援

• 学校クラブ活動支援

要請に基づき、大学・高校・中学ブリッジ部の立ち上げや新入部員獲得活動に対する支援やクラブ活動に必要な教材・用具等の提供を行った。

対象クラブ：4クラブ

• 学生リーグ支援

学生リーグ主催の学生選手権に今回初めて参加した学生に宿泊費・交通費の一部を助成した。

夏季学生選手権

開催日：平成 25 年 9 月 9 日～9 月 13 日

会 場：ホテルニューカネイ(千葉県九十九里)

参加人数：12チーム70名（うち受益対象者、18名）

春季学生選手権

開催日：平成26年3月10日～3月15日

会 場：東京都代々木オリンピックセンター

受益対象者の範囲・参加人数：全国の大学生8チーム52名

4. 広報（公益目的事業 2.4）

本年度は、「普及事業中期計画」に基づいて、以下の事業を実施した。

① 広報宣伝活動

- 平成 25 年度に実施した媒体への広告掲出は以下のとおり。

	掲出媒体	回数（合計）
イメージ広告	パズル誌 7月号、9月号、12月号、3月号	4回
	ないすらいふガイド 2013年版	1回
	SKYMARK 機内誌	4回
	5月号、8月号、12月号、3月号	
イベント告知広告	リビング横浜東・横浜南・田園都市	1回
	産経新聞 1月24日付	1回

- センター主催体験教室・講習会告知広告

リビング新聞各紙 9月7日号、9月21日号（全国）：145万円

産経新聞 11月29日付（大阪）：9万円

朝日新聞 3月1日付、3月8日付（東京・神奈川）：110万円

リビング新聞 2月～3月（仙台・千葉・大阪）：33万円

フクオカ・ビーキ 3月14日号：10万円

産経新聞 3月21日号（東京）：8万円

- その他の広報宣伝活動

プレスリリース配信：7本

ブリッジセンター及びブリッジクラブ向け集客広報支援：2件、総額 11万円

ブリッジ図書寄贈プロジェクト（山梨・東京）：14個所、18冊

② 出版物の刊行：入門レベル教材の作成（新規・単発）

- 一般の体験教室用として、平成 25 年 5 月に「体験教室標準マニュアル」を作成した。
- 学生クラブによる他大学や他サークルの友人・知人への PR 用として、平成 25 年 8 月に簡易マニュアルを作成した。
- 入門書は「ミニブリッジで遊びながら身につくコントラクトブリッジプレイテクニック」を平成 25 年 5 月に、「ゼロからのコントラクトブリッジ」を平成 25 年 10 月に発行し、JCBL 直販だけでなく、一般の大手書店やネットショップでも販売を開始した。JCBL

直販を除く販売部数（JCBL 会員・会友に限定しない一般の読者を対象とした実売部数）は、平成 26 年 3 月末時点で、それぞれ 389 部、501 部。JCBL 直販はそれぞれ 236 部、113 部。

③ ウェブサイト

- CMS システムの特徴を生かしたサイト戦略・活用方法を検討し、タイムリーな情報発信を行った。
- 「普及通信」ウェブ版を定期的に更新した。非インターネットユーザー向けには印刷版を作成して郵送した。
- 広報ツールの作成・配布
- 普及活動及び会員サービスとして活用可能な廉価なグッズの製作・購入・配付を行った。
- 平成 25 年 7 月に、情報を更新して総合パンフレットを改訂した。

5. 普及事業管理（公益目的事業 2.9）

- 普及事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出した。
- 普及に関わる JCBL 公認資格制度について検討し、導入を前提に議論を進めた。
- ブリッジ・インストラクターの登録管理と登録証の発行を行った。

III. 国際交流事業（公益目的事業 3）

本年度も、(1)国際競技会の主催、(2)海外競技会への参加支援及び(3)国際的競技団体との交流の 3 事業を通じて、ブリッジの普及・発展への寄与に努めた。

1. 国際競技会主催（公益目的事業 3.1）

① Yeh Bros 杯開催協力

平成 25 年 4 月にチャイニーズ・タイペイの葉氏が主催する国際試合 Yeh Bros 杯の日本開催に協力した。NEC ブリッジフェスティバルと連続する形で開催することにより、参加者数の増加、レベルの向上、経費負担の軽減を図った。

2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2）

① 日本代表選抜

- 平成 26 年度開催の第 2 回アジアカップ選手権の日本代表選抜試合を開催した。参加チーム数がオープン 1、ウィメン 2 のため、オープンは選抜試合を行わず、ウィメンは 12 月 14 日・15 日に選抜試合を行い、1 チームを選抜した。参加者には交通費と宿泊費を助成した。
- 代表チームの国内競技会参加料及び練習会の費用を助成した。

② 国際競技会派遣

• APBF 選手権

今年度は 6 月に香港で第 49 回 APBF 選手権が開催された。

代表者会議には、中谷理事が APBF 幹事長として、島村、寺本理事が代表委員として出席した。

日本から以下のオープン 1 チーム（全 12 チーム）、ウィメン 1 チーム（全 11 チーム）、シニア 3 チーム（全 15 チーム）を派遣した。

オープン：陳大偉（PC）、井野正行、平田隆彦、寺本直志、加来浩、古田一雄

ウィメン：小池和人（NPC）、島村京子、佐藤牧子、西田奈津子、大野美智子、
福吉由紀、柳澤彰子

シニア（IMAX）：森村俊介（PC）、今倉正史、阿部弘也、大橋正幸

シニア（YAMADA）：吉田正（PC）、大野京子、山田彰彦、中村嘉幸、平田眞

シニア（Sindbad）：宮国亜矢子（NPC）、宮国健次、逸見徹、田多井菊雄、徳永幸子、
太田裕子

試合成績はオープン、ウィメンがともに優勝し、プレイオフを戦うことなく世界選手権の出場権を獲得した。シニアは IMAX チームが 7 位、YAMADA チームが 9 位、Sindbad チームが 13 位となり、IMAX チームがプレイオフに連勝して世界選手権の出場権を獲得した。

オープン、ウィメンには交通費、宿泊費の助成を行った。

• 世界選手権派遣

今年度は 9 月にバリ（インドネシア）で第 41 回世界ブリッジチーム選手権が開催された。

日本から以下のオープン 1 チーム、ウィメン 1 チーム、シニア 1 チーム（各全 22 チーム）を派遣した。

オープン：高崎恵（NPC）、陳大偉、井野正行、寺本直志、加来浩、古田一雄、
高山雅陽

ウィメン：中谷忠義（NPC）、島村京子、佐藤牧子、西田奈津子、大野美智子、
福吉由紀、柳澤彰子

シニア：大橋正幸（PC）、森村俊介、今倉正史、阿部弘也、山田彰彦、大野京子
試合成績はオープン 11 位、ウィメン 9 位、シニア 14 位で、いずれのチームも上位 8 チームによる決勝ラウンドには進めなかった。

各チームのメンバーには交通費、宿泊費の助成を行った。

- その他国際試合派遣

9 月にニューデリー（インド）で開催された、Centenary Bridge Tournament への日本チームの招待に対し、交通費の一部の助成を行った。

③ 国際競技会派遣（ユース）

本年度は以下の競技会への参加を支援した。

- 第 3 回ワールドユースオーブンブリッジ選手権
- 第 19 回 APBF ユース選手権
- その他国際試合派遣

3. 国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3）

コントラクトブリッジを通じた国際交流を促進するため、本年度は以下の事業を実施した。

① 世界同時大会への参加

- 平成 25 年 6 月 7～8 日に開催された世界同時大会開催に参加協力
6 月 7 日（金）：12 クラブ、508 名参加（全世界：35 ヶ国、273 クラブ、9,226 名参加）
6 月 8 日（土）：12 クラブ、316 名参加（全世界：27 ヶ国、255 クラブ、10,120 名参加）

② APBF 同時大会への参加

- 平成 25 年 11 月～平成 26 年 4 月まで開催された APBF 同時大会開催に参加協力
11 月：16 クラブ、524 名参加
12 月：17 クラブ、496 名参加
1 月：16 クラブ、536 名参加
2 月：17 クラブ、570 名参加
3 月：16 クラブ、570 名参加
（4 月：17 クラブ、522 名参加）

③ 海外競技会に参加する会員の支援と海外への情報提供と収集

- ACBL との提携の継続・強化：ACBL 競技会の開催状況の提供
- APBF 加盟国競技会の開催情報の提供
- WBF 加盟国の競技会開催情報の提供

④ JCBL ウェブサイトの活用

連盟サイトを通して海外に情報を提供するとともに、ブリッジ関連サイトから情報を収集し、会員・会友に提供した。

4. 国際交流事業管理（公益目的事業 3.9）

- 国際交流事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出した。

IV. 収益事業等

1. 公認（収益事業等 1）

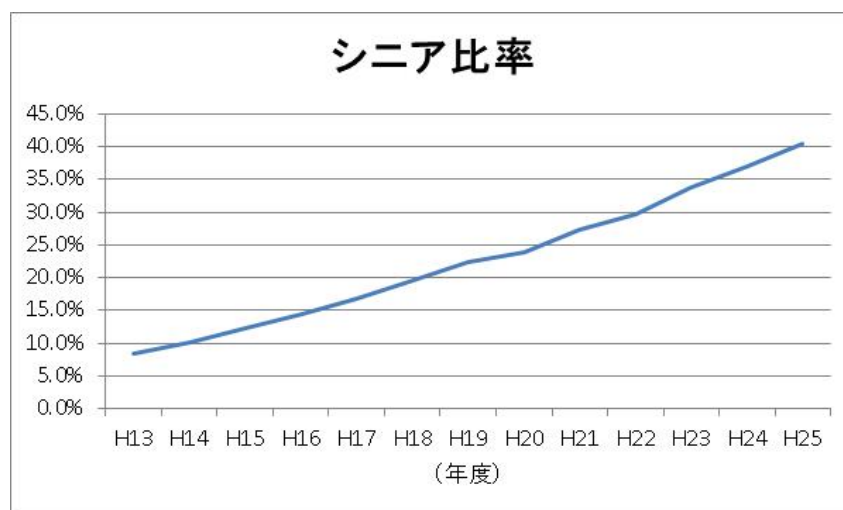
収益事業等 1.1 競技会の公認

① クラブ・センター主催競技会の公認

- 当連盟が公認するブリッジセンター及びブリッジクラブが主催する競技会（ナショナル、リジョナル、セクショナル、ローカル、CCG、IMP リーグ、ウィークリーゲーム）を公認した。

レイティング	競技会数	卓数
ナショナル	24	210.50
リジョナル	47	1,507.00
セクショナル	2,249	33,820.00
ローカル	469	3,013.00
CCG	1,255	11,029.25
IMP	839	4398.00
合計	4,883	53,977.75

- シニア及びジュニア・ユースプレイヤーに対する競技会参加料割引を実施した。内訳はシニア向けが 90%、ジュニア・ユース向けが 10%と、大部分をシニアが占めている。シニア会員・会友数及びシニアプレイヤーの競技会への参加がともに増加傾向にあることを反映して、近年この項目の支出が急増しており、今年度の割引対象額は 2,760 万円にのぼり、前年度に比べ約 200 万円の負担増となった。JCBL の財務基盤にマイナスの影響を及ぼす水準に達してきているとの認識から、シニア割引は本年度末をもって廃止することに決定した。



(注) JCBL 会員及び会友に占めるシニア会員・会友の割合。

② マスターポイントの認定・管理

- マスターポイントの集計・発行及びマスター位の認定を行った。

今年度認定したマスター位の人数は以下の通り

ダイヤモンドライフマスター：	2名
ゴールドライフマスター：	9名
シルバーライフマスター：	45名
シニアライフマスター：	106名
ライフマスター：	119名
シニアマスター：	177名
ナショナルマスター：	172名
マスター：	185名
ジュニアマスター：	231名

収益事業等 1.2 ブリッジクラブの公認と育成

① ブリッジクラブの公認と育成

- 新たに4つのブリッジクラブを公認した。
- 浜松リジョナルにあわせて地方クラブ会議を開催し、地方クラブの意見やニーズの把握に努めた。また、会議に出席する地方クラブ代表に対する参加費用の支援を行った。
- 「常設会場運営のためのサービス・ガイドライン」の運用、「ゲーム環境に係わるサービス向上のための意見書」対応、「緊急連絡システム」の運営、AED設置支援、バリアフリー工事助成を行った。

② 競技会開催支援

- 地方リジョナル6競技会にディレクター派遣費用の支援を行った。

2. 商品販売（収益事業等 2）

コントラクトブリッジに関する書籍、競技用具等の仕入れと販売を行った。

V. 管理部門

1. 会員・会友

① 入退会の状況

会員／会友数(平成 26 年 3 月 31 日現在)

会員資格	H26/3 月	H25/3 月	増減
正会員	88	94	△ 6
シニア正会員	77	77	0
終身会員	88	90	△ 2
特別会員	14	14	0
名誉会員	4	4	0
小計	271	279	△ 8
一般会友	2,740	2,728	12
シニア会友	2,671	2,420	251
団体会友	520	580	△ 60
海外会友	94	77	17
家族会友	255	310	△ 55
地方会友	860	795	65
ユース会友	82	88	△ 6
ジュニア会友	73	84	△ 11
終身会友	70	69	1
小計	7,365	7,151	214
総計	7,636	7,430	206
クラブ	115	114	1

② 会員・会友向け刊行物の発行

- ・ 会員・会友向けの以下の刊行物を編集・発行した。

『JCBL BULLETIN』（会報） 隔月刊年 6 回奇数月 1 日に発行、部数：7,400 部（1～4 号）、
7,500 部（5 号）、7,550 部（6 号）

『JCBL HANDBOOK』 毎年 5 月 1 日発行、部数：7,500 部

③ JCBL ライブラリーの運営

- ・ 通常の新刊書に加え、欠落していた図書の追加購入を行った。
- ・ 事務局が保管している写真アルバム、ビデオ、その他の資料類、及びオートブリッジなどの器具類も連盟資料として保管管理を徹底すべきとの観点から、ライブラリー管理対象物に加えた。

④ キャンペーン

- ・ 会員・会友向けに以下のキャンペーンを実施した。

入会キャンペーン 入会者及び紹介者に QUO カードを進呈

実施期間：平成 25 年 1 月 1 日～4 月 30 日

ビギナーズ杯招待 初心者プレイヤーに対する競技会参加奨励策として実施。

2. 理事会・会員総会

(1) 理事会

開催日／出席等	議事事項	会議の結果
第 9 回理事会 4 月 30 日 出席 12 名 欠席 1 名 監事出席 3 名	1. 第 8 回理事会議事録案の承認について 2. 平成 24 年度事業報告書及び決算報告書について 3. 理事による利益相反取引の承認について 4. 第 2 回会員総会の招集について 5. 各委員会及び事業部報告	可決 会員総会への付議を決議 承認 承認 了承
第 10 回理事会 6 月 28 日 出席 10 名 欠席 3 名 監事出席 2 名	1. 第 9 回理事会議事録案の承認について 2. 正会員の承認について 3. 公認クラブ申請について 4. 各委員会及び事業部報告	可決 承認 承認 承認及び了承
第 11 回理事会 8 月 30 日 出席 12 名 欠席 1 名 監事出席 1 名	1. 第 10 回理事会議事録案の承認について 2. 公認クラブ申請について 3. 会友会費について 4. 各委員会及び事業部報告	可決 承認 承認 了承
第 12 回理事会 10 月 25 日 出席 12 名 欠席 1 名 監事出席 3 名	1. 第 11 回理事会議事録案の承認について 2. 会員の逝去について 3. 各委員会及び事業部報告	可決 了承 承認及び了承
第 13 回理事会 12 月 20 日 出席 12 名 欠席 1 名 監事出席 2 名	1. 第 12 回理事会議事録案の承認について 2. 公認クラブ申請について 3. 正会員の承認について 4. 会員の逝去について 5. 2014 年度予算案について 6. 各委員会及び事業部報告 7. 職員の退職について 8. 福岡ブリッジプラザについて	可決 承認 承認 了承 了承 了承 了承 了承
第 14 回理事会 1 月 24 日 出席 11 名 欠席 2 名 監事出席 1 名	1. 第 13 回理事会議事録案の承認について 2. 役員候補選出委員会の設置及び委員長 の選出について 3. 平成 26 年度予算案及び事業計画書につ いて 4. 各委員会及び事業部報告 5. 正会員の承認について	可決 了承 了承 承認及び了承 承認
第 15 回理事会 3 月 20 日 出席 11 名 欠席 2 名 監事出席 2 名	1. 第 14 回理事会議事録案の承認について 2. 会員の退会について 3. 次期役員立候補状況について 4. 会友規則改正について 5. 平成 26 年度予算案及び事業計画書につ いて 6. 各委員会及び事業部報告 7. 福岡ブリッジプラザについて 8. チャリティ寄付先について 9. 公認クラブ休会について	可決 了承 了承 承認 承認 承認及び了承 承認 承認 了承

(2) 総会

開催日／出席等	議事事項	会議の結果
第 2 回会員総会 5 月 25 日 総会構成員 278 名 出席 173 名 (内委任状 148 名)	1. 平成 24 年度の公益社団法人日本コント ラクトブリッジ連盟事業報告、貸借対照 表、正味財産増減計算書、財産目録並び に収支計算書について 2. 平成 25 年度の事業計画並びに予算案に ついて	承認 了承

3. 組織運営

① 事業運営体制

- 平成 26 年度予算案の審議のために平成 26 年 1 月 15 日業務執行理事による業務執行会議を開催した。今回の予算案はすでに 1 度理事会に提出されたものであるため、不明な点の確認を行った。
- 来年度以降は各事業部が予算編成を行い、それをまとめた時点で業務執行会議を開催し、各事業部の予算について、拡大、縮小の審議を行うことになった。その後企画委員会で予算案の審議を行う際、各事業部の業務執行理事が出席して予算の内容について説明することとし、業務執行理事が企画委員会に委員として出席する、「拡大企画委員会」を開催することとなった。
- 会友会費改定に伴う会友規則など、いくつかの規則を改定した。

② 事務局

- 兼岩総務担当業務執行理事が毎月大政事務局長及び清水普及事業部長と面談を行い、業務執行状況の確認、業務効率化についての打合せを行った。
- 職員研修の一環として、貴戸事務局員が英会話教室を受講した。
- 平成 26 年 6 月末に野田事務局員が退職予定のため、事務局員の業務分担を変更した。

③ 九州地区

- 福岡ブリッジプラザは平成 25 年 4 月 1 日をもって当連盟から独立し、一般のブリッジクラブと同格の団体に新たに生まれ変わった。平成 25 年度は競技会公認料の免除及び普及活動を中心とした技術支援等を行った。
- 福岡ブリッジプラザの特定非営利活動法人への移行を支援し、平成 26 年度前期についても競技会公認料の免除を継続することに決定した。

④ 人事委員会

- 定例委員会を平成 26 年 3 月 5 日に開催し、平成 25 年度の職員の評価、平成 26 年度の職員の年俸支給額について検討を行った。

4. 企画委員会

- 平成 25 年 3 月開催の企画委員会において、アドバイザーとして参加していた関澤美穂氏を委員長指名により改めて企画委員に選任した。

委員： 山田和彦（委員長）、大政哲人（事務局長）

（委員長が指名する委員）清水映樹、寺本直志、西田奈津子、平田隆彦、古田一雄、関澤美穂

アドバイザー：成田秀則監事、宮内宏顧問弁護士

- 定例委員会を、平成 25 年 4 月 12 日、5 月 17 日、6 月 18 日、8 月 9 日、10 月 11 日、11 月 8 日、12 月 6 日、平成 26 年 1 月 17 日、2 月 21 日、及び 3 月 7 日に、合計 10 回開催した。

- 本委員会では、平成 24 年度から 25 年度にわたる課題として、以下を挙げていた。
 - (1) 普及事業中期計画の策定
 - (2) 翌年度予算案審議・事業計画書作成
 - (3) 当年度事業報告書作成
 - (4) 会友（会費）制度の簡素化と改定
 - (5) 競技会公認料の見直し
 - (6) 競技会参加料の消費税対応
- (1) 普及事業中期計画の策定については、すでに平成 24 年度中に終了した。
- (2) 翌年度予算案審議・事業計画書作成 及び (3) 当年度事業報告書作成については、例年どおり 12 月から 3 月にかけてこれを行い、平成 26 年度予算については事業執行会議と連携して、収支均衡予算を策定した。
- (4) 会友（会費）制度の簡素化と改定については、当委員会にワーキンググループを設置して詳細な検討を行い、会友会費については原則として年額 6,000 円と 3,000 円の二本立てに簡素化して、連盟全体の事業効率化の成果を値下げという形で今後の普及に役立てる案を理事会に提案した。従来の地方会友については、公認クラブ会議での意見などを踏まえ、現行の会費を当面据え置くこととした。また、会友会費の値下げにあたっては、会員・会友の高齢化に伴い連盟の負担となっているセクショナル競技会の「シニア割引」を廃止することを併せて提案して実現した。
- (5) 競技会公認料の見直しと、(6) 競技会参加料の消費税対応については、次項「センター協議ワーキンググループ」にて詳述する。

5. センター協議ワーキンググループ

- 平成 24 年 9 月に「首都圏ブリッジセンター連絡会」から提出された要望書に基づき、「競技会公認料の見直し」と「競技会参加費の消費税対応」について、理事会直属のワーキンググループを設置して、山田企画委員長、中谷競技会担当業務執行理事、大政事務局長の 3 名が、ブリッジセンター側の代表者である四谷ブリッジセンター、横浜ブリッジセンター、高田馬場ブリッジセンターのマネージャー 3 名と継続的に協議を重ねてきた。
- この協議においては、ブリッジセンターは本来ブリッジの普及拠点として連盟と協力して活動すべきであるとの考えから、ブリッジセンターの普及活動を連盟がいかに支援するかという点を重視して話し合いが行われた。
- 1 年以上にわたる協議の結果、連盟とブリッジセンター側の合意として、以下が成立した。
 - (1) 競技会公認料の見直し

平成 26 年度より、セクショナル競技会以上の公認料について、原則として現行の 25% を 22% に引き下げる。ただし、普及活動を行わないブリッジセンターについては、公認料を元に戻すことがある。
 - (2) 普及目的の競技会の公認料の減免

ブリッジの普及を主たる目的とする競技会の範囲を拡大し、この種の競技会については公認料を免除する。
 - (3) ブリッジセンターの普及活動への支援・助成の拡大

ブリッジセンターの開催する体験教室、入門講座などの普及活動については、講師・アシスタントの謝礼やテーブルチャージを一定範囲連盟が負担することとし、平成 25 年度から随時実施する。平成 26 年度以降は、助成範囲をさらに拡大する予定。
 - (4) 公認クラブ規則の改定

ブリッジセンターの義務などを現状に即して定めるための規則を平成 26 年 4 月以降実施するために改正し、名称を「公認クラブとブリッジセンターに関する規則」に改めた。
 - (5) 競技会参加料の消費税対応

連盟としては、競技会を主催するブリッジセンターの消費税対応については、それぞれ

れのブリッジセンターに委ねることとし、連盟主催の競技会については平成 26 年 4 月以降の消費税の値上げ時にも参加料を据え置くこととした。

- 上記の合意は、平成 25 年 12 月開催の理事会において承認された。
- なお、今後とも連盟とブリッジセンターとの協議は、競技会、普及の双方できわめて重要と考えられるので、平成 26 年度以降も継続して開催することを検討している。